



100年前の原始性が感じられる森林を復活させよう

ニュースレター

山の日記念

野幌「森林づくり塾2016」

石狩地域森林ふれあい推進センター

TEL: 011-533-6741
FAX: 011-533-6743

第3回「森林づくり塾2016」を開催しました

「野幌の巨木マップを作ろう」

「森林づくり塾」は、平成16年の台風被害にあった野幌森林公園の自然再生プロジェクトの一環として、市民の皆さんが、植栽などの森林づくりに関する実体験や知識の習得をしながら、森林と人との係わりなどについて学んでいくものです。

今年度は年3回の予定で、第3回目の「森林づくり塾」を3月4日(土曜日)に開催しました。

今回は、野幌森林公園内の未だ現存している巨木を探し、マップを作成ながら森林と人の係わりや生態系などについて感じていただくことを目的として開催しました。



当日は、晴天に恵まれ穏やかで心地良い森林散策日より、塾生25名の参加をいただき開催しました。みんな心なしか、足並みが軽やかに見えます。

まずは、現地までバスで移動です、移動中、巨樹・巨木とは？世界や日本の巨木などを説明し、現地に到着、

体をほぐすために準備体操 1、2、3、暖まったところで、カンジキ(雪輪、スノーシュー)を履きます。履き慣れている方もいますが、半数の方は初めて履くようです。

当センターで用意したカンジキ(雪輪)は、装着しやすいようにバックル式になっています。最新式のスノーシューを持参した方もいます。



おや、昔懐かしい、ロープで編んであるカンジキも、

準備できたところで、出発です。



みなさん、前後の間隔を開けて林内に入っていきます。

カンジキを使用すると足が雪に埋もれることはありませんが、カンジキを外すと、股下近くまで埋まります。

あらためてカンジキの効果を確認





雪の深さを確認したところで、巨木探しスタートです。

巨樹・巨木は、根際から130cmの高さの幹周りが、300cm以上を巨木と定義しています。

はじめに現れたのは、センノキです。
どれくらいの幹周りでしょうか？
二人で手をつないで幹を一周できるほど

みんなの予想は、
直径100cm、幹周り300cmです。

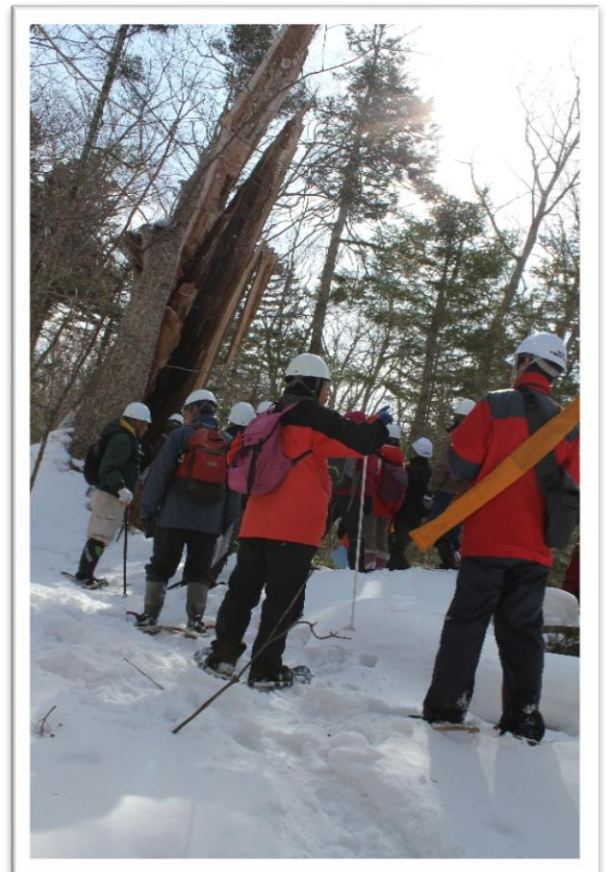
計測の結果、
幹周 260cm、直径 約80cm でした。

巨木としては、少し細いようです。



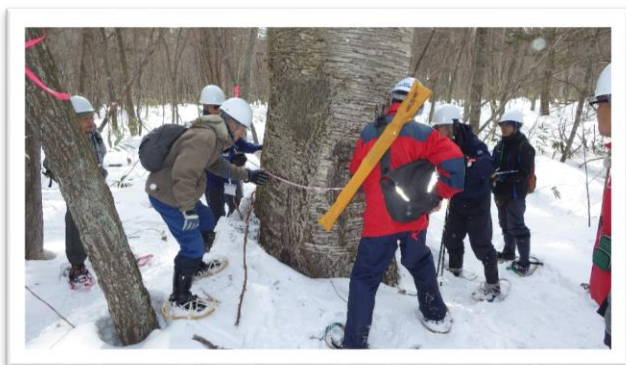
ミズナラの折損木もありました。

折れていなければ、巨木となる太さでした。



途中、キツネやエゾリスの足跡を見つけたり、ミズナラやハルニレの太い木を観察しながら森林の奥へ散策していくと、ありました、本日より一番の巨木が、
幹周 380cm、
直径 120cm、
樹高 33m
のウダイカンバ(マカバ)です。

みんな、その太さ、大きさに驚き、野幌森林公園内にこんなに太い木があったとは？



散策しながら冬の森林を観察することができ、有意義な1日となりました。今年度の「野幌森林づくり塾」は、これで終了です。



来年度も知識や技術を習得できる新たなカリキュラムを準備してお待ちしております。
詳しくは、http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/isikari_fc/event/jyukuseibosyuu.html をご覧下さい。